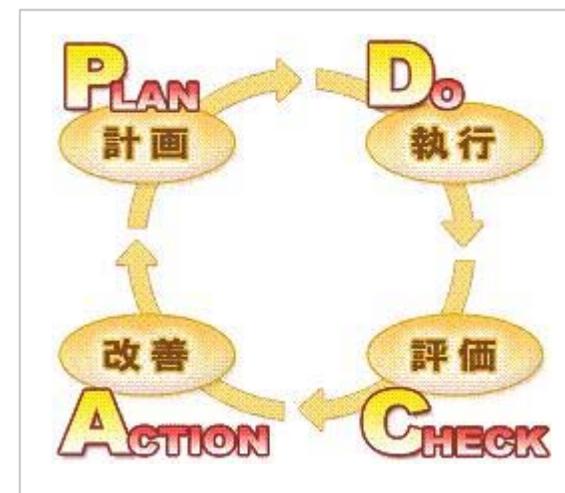


## 第5次総合振興計画・後期基本計画 主要施策を達成させるための数値目標 設定の考え方

## 1 指標について

- 「指標」とは、それぞれの取り組み（施策）に対する**目標値**のことです。
- 目標値を定めることで、それぞれの取り組みの目的や目標が明確になってきます。
- 課題を解決し、目的を達成するための手段として、様々な取り組みがあります。
- それらの取り組みは、**ただ実施すればよいのではなく、必ず改善をしていかないとはいけません。**  
これが「**PDCAサイクル**」というものです。
- 「PDCAサイクル」とは、**実施した成果を評価し、課題を抽出したうえで、改善の計画をたて、目的達成にむけて改善し取り組むもの**です。現在の行政事務には必ず求められているものです。

PDCAサイクルのイメージ図



- 逆にいうと、「PDCAサイクル」を確立していくためには、目標が必要となります。
- 目標は、それぞれの取り組みによって異なりますが、漠然としたものより、**数値などで客観的に評価できるもの**の方が、目的にむかって取り組みやすくなります。
- しかし、目標値（数値）にも捉え方がそれぞれ異なりますので、**どのような数値を目標にするかが重要**となってきています。
- 目標値を設定するにあたっては、「アウトプット指標」、「アウトカム指標」というものがあります。それぞれの指標の考え方は次のとおりです。

- ・ **アウトプット指標** …… 取り組み（事業）を実施することで**直接発生した成果物や事業量**を表します。
- ・ **アウトカム指標** …… 取り組み（事業）を実施したことで**発生する効果や成果**を表します。

[例] 「花火大会の開催」に対するアウトプットは「何人来場したか」。アウトカムは何人来場したことで、「いくら経済効果があったか」というもの。

[参考] KPI（重要業績評価指標：Key Performance Indicator の略称。）

まち・ひと・しごと創生法に基づく総合戦略では、行政活動そのものの結果（アウトプット）ではなく、その結果として住民にもたらされた便益（アウトカム）に関する数値目標を設定するよう義務付けられています。今後は、アウトカム指標をKPIと表現していく機会が増えていくものと考えられます。

- PDCAサイクルを実現していくためには、**成果がどうであったのかを客観的に把握**する必要があります。このために必要な指標は、「**アウトカム指標**」といわれるものとなります。
- このため、今回の「指標」については、できるだけアウトカム指標となるようにしています。また、アウトカムが困難な場合でも、客観的に成果を捉えるとともに、改善に繋がる指標を設定しています。
- 当然ですが、原則他自治体等との比較や、経年での推移で比較ができるようなものとしています。

## 2 目標値について

- 目標値は毎年実施計画で設定し、達成に向けた取り組みを行なっていますが、それぞれ目標値には根拠があります。今回設定している目標値は、単に担当課が考えたものだけではなく、次のような考え方で設定をしています。

### 【住民意識調査を指標としたもの】

- ・満足度の割合が横ばいまたは向上しているものは、過去の推移をもとに推計。
- ・満足度の割合が落ちているものは、過去の最高数値または過去の推移をもとに推計。
- ・重要度が高く満足度が低い「重点化・見直し領域」は、過去の推移に10%プラス。
- ・重要度・満足度ともに低い「改善・見直し領域」は、過去の推移に5%プラス。

### 【経年の変化が把握できるもの（参加者数など）】

- ・落ち込んでいる数値は、過去最高数値または直近5年程度の推移をもとに推計。
- ・近隣自治体や先進事例を基に推計。

### 【他の自治体等との比較によるもの】

- ・近隣自治体と比較し低い数値は、その平均値、直近上位、または郡内最高値（事業の特性に応じて設定）

- 数値目標となる基準値は、**後期基本計画策定時（27年11月）における直近値を基本**とし、基本構想策定時（22年度）など、今後達成していかなければいけない目標にむけて、**最も基準となる直近データ**としています。
- 目標値は、「主な取り組み（主要施策）」ごとに1つ以上設定しました。（前期計画では、「施策」ごとの設定であったため、増やしています。）

第5次総合振興計画・後期基本計画 主要施策を達成させるための数値目標 設定根拠説明資料

【第1章：住民とともに進めるまちづくり】 第1節：地域づくり

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	〔住民意識調査〕 協働のまちづくり・情報共有に関する満足度の構成比	26年度	46.5%	52.0%	<b>【根拠】</b> ・客観的かつ幅広い年代の把握ができるため。 <b>【目標値】</b> ・過去の推移を考慮した目標設定 〔過去の推移〕H21：41.0% → H24：43.1% → H26：46.5%
2	自治区担当職員制度による 自治区ビジョン策定区数	26年度	0区	10区	<b>【根拠】</b> ・地域コミュニティ推進の目玉事業であり、目標は自治区毎のビジョン策定であることから設定。 <b>【目標値】</b> ・当該制度は段階的にステップアップする計画で、30年度からビジョン策定を各区で実施。30年度はモデル事業として3区。これをきっかけに順次自治区の状況に応じて策定を進めるもの。
	自治区加入率	26年度	61.7%	64.0%	<b>【根拠】</b> ・本町の最も課題となっており、加入率向上が大きな課題である。行政と住民とが共有できる目標値でもある。 <b>【目標値】</b> ・遠賀郡4町における26年度の加入率平均値を設定。減少傾向にある中、増加傾向に転換することに最も力が必要であり、まずは郡内平均を目指そうとするもの。
3	ボランティア登録団体数	26年度	52団体	55団体	<b>【根拠】</b> ・ボランティア活動センターにおけるコーディネート件数やボランティア育成件数、活動件数などが理想であるが、把握できていないため。
	ボランティア登録人数	26年度	31人	40人	<b>【目標値】</b> ・近隣自治体の事例をもとに、現状と踏まえ推計。

第5次総合振興計画・後期基本計画 主要施策を達成させるための数値目標 設定根拠説明資料

【第2章：安全で安心して暮らせるまち】 第1節 安全・安心

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	防災訓練の実施回数 (自主防災組織、女性防火クラブ、町などによる防災訓練)	26年度	4回	30回	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃からの備えとして防災訓練の重要性が高く意識醸成にも重要。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30自治区に自主防災組織を形成する目標であるため、全ての自主防災組織での実施に加え、女性防火クラブ、町などによる訓練を想定</li> </ul>
	自主防災組織の形成件数	26年度	25団体	30組織	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての自治区単位での自主防災組織設置を目指しているため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての自治区への設置を目標として設定。</li> </ul>
2	消防団員数	26年度	85人	88人	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団員を確保することが取り組みとして求められているため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芦屋町における消防団員定数を設定。</li> </ul>
3	町内での犯罪発生件数	26年度	11件	0件	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯に関する各種取り組み成果として犯罪件数が減少することが目的。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪が発生しないよう努める取り組みのため、理想値を設定。</li> </ul>
4	町内での交通事故(人身事故)発生件数	26年度	39件	39件	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全の取り組み成果として事故の発生件数が抑制されることが目的。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の人身事故発生件数で最も低い数値を設定。まずは増加しない取り組みを推進していく。</li> </ul>

【第3章：子どもがのびのびと育つまち】 第1節 子育て支援

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	子育て支援センター利用者数	26年度	9,000人	9,500人	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援や町の情報の収集発信の拠点であり、入口としてまずは来てもらうことが必要であるため、利用者数の向上が一つの指針となる。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の推計と施設規模から推計。</li> </ul>
	出生率	24年度	1.67	1.73	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世帯の定着と支援策の充実により出生率を増やすことが目的。地方創生総合戦略でも重要な施策の一つであるため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋町人口ビジョンの仮定値「2025年（H37）に1.80」を目標にした推移から設定。</li> </ul>
	〔住民満足度調査〕 「子育て支援」に関する満足度の構成率	26年度	62.8%	70.9%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援策は多岐に渡ることから、総合的な満足度調査から判断</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の推移を考慮した目標設定</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H21：54.7% → H24：62.8% → H26：62.8%</p>

【第3章：子どもがのびのびと育つまち】 第2節 幼児教育・学校教育

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	標準学力検査（NRTテスト）5段階評価における3・4・5ランク（平均値以上）の割合	26年度	75.0%	82%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力情報調査に近い形で評価され、教科が増えるなどきめ細やかな学習指導に活用できるため、NRTテストによる評価を23年度から導入。多くの学校が導入しておりこの評価が成果を判断する有効な手段。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相対評価（対象は全国）であり、ランク1～5までの構成比が定められている。理解度最下位のランク1の構成比7%を解消することを目標とし、全体でランク3～5の構成（平均以上）の割合を増やすことを目標としている。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H23：76%→ H24：79%→ H25：74%</p>
2	〔住民意識調査〕 「教育の充実」に関する満足度の構成比	26年度	63.0%	64.4%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育施策は多岐に渡ることから、総合的な満足度調査から判断</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の推移を考慮した目標設定。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H21：54.7%→H24：62.8%→H26：63.0%</p>
	不登校児童・生徒の数	26年度	22人	15人	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校解消の成果が一定数出ているため継続するものとして指標化。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの成果をもとに推計。</li> </ul>

【第3章：子どもがのびのびと育つまち】 第2節 幼児教育・学校教育

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
3	〔住民満足度調査〕 「特別支援教育」に関する満足度の構成比	26年度	63.0%	64.4%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援を評価する具体的指標がなく総合的な満足度調査を選定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の推移から考慮した目標設定。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H21：54.7%→H24：62.8%→H26：63.0%</p>
4	空調設備の整備率	27年度	0%	100%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備の具体的な取り組みが空調設置のため整備率で設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての小中学校への設置が目標であるため。</li> </ul>
	不審者発生件数	26年度	11件	0件	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全対策上不審者を発生させない取り組みが重要なため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去5年間で発生のない年も多くあるため、発生なしを目標。</li> </ul>

【第4章：いきいきと暮らせる笑顔のまち】 第1節 社会福祉

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	要介護認定率	26年度	19.8%	21.5%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この取り組みでは健康な高齢者をいかに増やすかがポイントであることから設定。下がっていくことが理想となる。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡県介護保険広域連合が定めた「介護保険事業計画」の目標数値を設定。(高齢化が進んでいく中で、認定率の上昇は防げないが、最低限にとどめた数値となっている。)</li> </ul>
2	〔住民満足度調査〕 「障がい者福祉」に関する満足度の構成比	26年度	61.0%	61.7%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要とする方へいかに支援を届けるかが重要であり、多岐に渡るサービスがあるため、総合的に判断する指標として、満足度調査を選定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の最高値を設定。 〔過去の推移〕 H21：58.4%→H24：61.7%→H26：61.0%</li> </ul>
3	〔住民満足度調査〕 「高齢者福祉」に関する満足度の構成比	26年度	62.9%	65.5%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な取り組みがあり個別の評価が困難なため、総合的に判断する指標として、満足度調査を選定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の最高値を設定。 〔過去の推移〕 H21：61.0%→H24：65.5%→H26：62.9%</li> </ul>

第5次総合振興計画・後期基本計画 主要施策を達成させるための数値目標 設定根拠説明資料

【第4章：いきいきと暮らせる笑顔のまち】 第2節 健康づくり

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	胃がん検診受診率	26年度	8.6%	12.0%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見、早期治療が重要であり、郡内で最も低い受診率を高めていくことが目的達成となるため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠賀郡4町で最も低いため、遠賀郡4町平均値を設定。</li> </ul>
	乳がん健診受診率	26年度	17.9%	23.5%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見、早期治療が重要であり、受診率を高めていくことが目的達成となるため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠賀郡4町で最も低いため、遠賀郡4町平均値を設定。</li> </ul>
	〔住民満足度調査〕 「健康づくり」に関する満足度の 構成比	26年度	74.6%	85.5%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進に対する取り組みは多岐に渡るため、総合的に判断する指標として、満足度調査を選定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の推移を考慮した目標設定。 〔過去の推移〕 H21：63.7%→H24：73.5%→H26：74.6%</li> </ul>
2	特定健診受診率	26年度	32.6%	38.0%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受診率を高めることで成人病予防等に繋がり医療費削減を目指すものであるため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣自治体、県等の実態をもとに推計。</li> </ul>

【第4章：いきいきと暮らせる笑顔のまち】 第3節 医療

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	〔住民満足度調査〕 「地域医療の充実」に関する満足度の構成比	26年度	36.2%	60.7%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療充実に関する評価の具体的指標がなく総合的な満足度調査を選定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要度が高く、満足度が低い重点化・見直し領域のため、過去の最高値に10%を加えたもの。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H21：50.7%→H24：50.3%→H26：36.2%</p>

【第5章：活力ある産業を育むまち】 第1節 農業

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	認定農業者数	26年度	15人	17人	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就労や遊休農地活用など総合的な農業支援を図ることで得られる成果として設定。農業所得や出荷量は把握が困難である。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現状から考慮し、大きく乖離しない数値を設定。</li> </ul>
2	耕作放棄地面積	26年度	103 a	76 a	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遊休農地の活用を図ることで得られる成果として設定。 (毎年実施している耕作放棄地状況調査の結果を反映)</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在活用要望のある土地を解消した場合の数値を設定。</li> </ul>

第5次総合振興計画・後期基本計画 主要施策を達成させるための数値目標 設定根拠説明資料

【第5章：活力ある産業を育むまち】 第2節 水産業

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	磯漁などの1人あたり漁獲量	26年度	367 kg	400 kg	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種支援を行なうことで、漁獲量や漁獲高を向上させることが産業の振興に繋がるために、他とも比較できるものとして設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基準年度から過去5年間における推移の平均値。 (気象条件により大きく左右されるため平均値を採用)</li> </ul>
2	機能保全計画の進捗率	26年度	0 %	100 %	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漁港施設等の整備を計画的に推進していくものであり、計画どおりの進捗を管理していく必要があるために進捗率を設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標年次には、計画化した事業が完了する予定であるため。</li> </ul>

第5次総合振興計画・後期基本計画 主要施策を達成させるための数値目標 設定根拠説明資料

【第5章：活力ある産業を育むまち】 第3節 商工業

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	新規創業事業者数（累計）	26年度	0件	20件	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度化しているため数値化による推移が計測できるため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直近5年の推移をもとに増加傾向。</li> </ul>
	空き店舗活用事業者数（累計）	26年度	0件	15件	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度化しているため数値化による推移が計測できるため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直近5年の推移をもとに増加傾向。</li> </ul>
	町内事業所総数	26年度	510事業所	565事業所	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創業支援などにより事業所増加がひとつの成果としてあげられるため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣自治体の状況等から目標を設定。</li> </ul>

第5次総合振興計画・後期基本計画 主要施策を達成させるための数値目標 設定根拠説明資料

【第5章：活力ある産業を育むまち】 第4節 観光

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	〔住民満足度調査〕 「観光の振興」に関する満足度の構成比	26年度	48.3%	64.8%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多岐に渡る施策であることから数値化が困難であり、総合的な判断指標として満足度調査を設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要度が高く、満足度が低い分野のため、過去最高値に10%を加えたもの。 〔過去の推移〕 H21：54.5%→H24：54.8%→H26：48.3%</li> </ul>
2	観光入込み客数	25年度	570,000人	587,500人	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国統一調査により毎年公表され、他自治体との比較も可能なため設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年2,500人増の目標設定。</li> </ul>
	マリンテラスあしや利用数	26年度	74,854人	80,000人	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光の拠点施設でもあるため、落ち込んでいる利用者を増やすことが他へ与える影響も大きい。営業施設であるため正確な数値が把握でき、推移を比較しやすいため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次期指定管理者の目標推計から設定。(宿泊、レストラン、入浴等)</li> </ul>
	芦屋海浜公園利用数	26年度	119,930人	136,500人	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型遊具の設置など今後利用を高めていくことを取り組みとしていることや、指定管理者による管理により一定の利用者把握が可能で、推移を比較しやすいため設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの推移から設定。(指定管理者の目標値)</li> </ul>

第5次総合振興計画・後期基本計画 主要施策を達成させるための数値目標 設定根拠説明資料

【第6章：環境にやさしく、快適なまち】 第1節 生活環境

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	温室効果ガス排出量	22年度	70,373 t-CO2	65,497 t-CO2	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の目標としても定められており、経年で把握しているため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境基本計画から抽出。</li> </ul>
2	一般廃棄物の1人あたり排出量	26年度	780 g	655 g	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物処分経費の削減にも繋がり、他自治体や経年での比較分析が容易なため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境基本計画から抽出。</li> </ul>

【第6章：環境にやさしく、快適なまち】 第2節 公園・緑地

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	街区公園の整備率	26年度	0%	100%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果として数値化が困難なため、整備対象としている公園に対する整備率を設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に推進し、計画期間中に対象公園を完了する目標。(16公園)</li> </ul>
2	「公園や緑地」に関する満足度	26年度	55.6%	68.3%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が限定されていないうえ複数個所に配置しているため、数値の把握が困難なことから、総合的な評価が得られる満足度調査を選定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の推移を考慮した目標設定。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H21：42.9%→H24：44.4%→H26：55.6%</p>

【第6章：環境にやさしく、快適なまち】 第3節 土地利用・住宅

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	町有地等の有効活用件数	26年度	0件	6件	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた町域であり有効活用できる用地を活用していくことは重要であるため、町有地の売却をはじめ国有地等の遊休地を有効活用していく件数を設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状で活用できていない遊休地（一定規模の面積）の件数を計上。</li> </ul>
2	町営住宅管理戸数	26年度	797戸	746戸	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町営住宅長寿命化計画により計画的な整備、管理戸数の適正化を推進しているため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町営住宅長寿命化計画に基づく目標戸数。</li> </ul>
3	定住奨励金交付件数(制度開始からの住宅購入件数)	25年度	28件	200件	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新築住宅は当該制度で正確に把握できるため。(転入転出が多いため他に正確に把握できる指標がない。)</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・25年度から制度開始したため基準年度とし、当該制度における目標値を設定。</li> </ul>

【第6章：環境にやさしく、快適なまち】 第4節 道路・交通

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	橋梁の改修率	26年度	39%	100%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性確保から緊急性があるため、指標として設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁長寿命化計画に基づく目標値。</li> </ul>
2	芦屋タウンバス利用者数	26年度	90,361人	98,000人	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町営のバス事業であるため、他の事業者と比較し利用者ニーズに対応した運行が可能。車を持たない方の生活交通として利用してもらうことが目的であり、利用者数が増えることが目的達成のひとつである。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の推移と現在の運行状況から推計。</li> </ul>
	〔住民満足度調査〕 「公共交通機関の利便性」に関する満足度の構成率	26年度	26.0%	48.0%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値の把握が困難なことから、総合的な評価が得られる満足度調査を選定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要度が高く、満足度が低い分野のため、過去最高値に10%を加えたもの。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H21：38.0%→H24：33.8%→H26：26.0%</p>

【第6章：環境にやさしく、快適なまち】 第5節 上水道・下水道

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	〔住民満足度調査〕 「下水道事業」に関する満足度の 構成比	26年度	82.0%	<b>82.9%</b>	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>普及率は99.9%であり安定的な維持を行うことが取り組みとなる。このため住民にとってわかりやすい指標とするため、総合的な判断指標として満足度調査を設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の最高値で設定。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H21：81.1%→H24：82.9%→H26：82.0%</p>

【第7章：心豊かな人が育つまち】 第1節 生涯学習

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	課題解決型講座の開催件数	26年度	0件	10件	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他課や他機関との連携による課題解決型講座を今後展開していくことから指標として設定。ただし数値化が現時点で可能な、開催件数を設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>想定される課題解決型講座の件数を設定。</li> </ul>
	〔住民満足度調査〕 「生涯学習の充実」に関する満足度の構成比	26年度	63.0%	64.2%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数値化が困難なため、総合的な判断指標として満足度調査を設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平均値以上で推移しているため、過去最高値で設定。 〔過去の推移〕 H21：58.3%→H24：64.2%→H26：63.0%</li> </ul>
2	生涯スポーツ事業の参加者数	26年度	969人	1,250人	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯スポーツの内容充実により、参加者数の増加を図るため、指標として設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の推移と他自治体の実績をもとに設定。</li> </ul>

【第7章：心豊かな人が育つまち】 第1節 生涯学習

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
3	社会体育施設の利用者数	26年度	130,879人	140,000人	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設改修等により利用者増を図ることを目的とするため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の推移と他自治体の実績をもとに設定。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H24：121,513人→H25：124,822人→H26：130,879人</p>
	〔住民満足度調査〕 「社会教育施設」に関する満足度の構成比	26年度	65.8%	74.5%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数値化が困難なため、総合的な判断指標として満足度調査を設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の推移をもとに目標設定。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H21：57.1%→H24：63.6%→H26：65.8%</p>

第5次総合振興計画・後期基本計画 主要施策を達成させるための数値目標 設定根拠説明資料

【第7章：心豊かな人が育つまち】 第2節 人権

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	人権講演会・人権まつり来場者	26年度	520人	600人	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の固定化解消が課題であるが新規来場者の把握が困難なため、全体の来場者数を指標として設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先進自治体の例や他の取り組みなどを総合的に精査し算出。</li> </ul>
	〔住民満足度調査〕 「人権教育」に関する満足度の構成比	26年度	65.0%	68.8%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数値化が困難なため、総合的な判断指標として満足度調査を設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の推移をもとに目標設定。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H21：61.2%→H24：64.0%→H26：65.0%</p>
2	〔住民満足度調査〕 「男女共同参画」に関する満足度構成比	26年度	58.9%	67.1%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数値化が困難なため、総合的な判断指標として満足度調査を設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の推移をもとに目標設定。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H21：50.7%→H24：54.5%→H26：58.9%</p>

【第7章：心豊かな人が育つまち】 第3節 歴史・文化

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	文化財情報のマスコミ取材件数	26年度	●件	●件	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の情報発信のひとつとしてマスコミへ行うことで、町内外に広く発信できるため。また、近年専門誌などの取材も増えており、文化財をキーに芦屋町の情報発信にも繋がり、町民の郷土心醸成にも貢献できるため。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基準年度の件数をもとに、推計。</li> </ul>
2	芦屋釜の里来場者数	26年度	16,880人	20,000人	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋釜に関する文化施設ではあるが、観光施設としての活用側面ももつことから、町内外者の利用促進を図るため、数値目標として設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の推移やマリンテラス利用者目標などを参考に算出。</li> </ul>
3	〔住民満足度調査〕 「歴史文化の振興」に関する満足度構成比	26年度	66.0%	70.9%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数値化が困難なため、総合的な判断指標として満足度調査を設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の推移をもとに目標設定。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H21：61.5%→H24：66.4%→H26：66.0%</p>

【第7章：心豊かな人が育つまち】 第4節 国際交流

施策	指標名	現状値		目標値 (平成32年度)	指標の説明・目標値設定の根拠等
		基準年度	数値		
1	〔住民満足度調査〕 「国際交流の推進」に関する満足度の構成比	26年度	66.6%	74.3%	<p>【根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値化が困難なため、総合的な判断指標として満足度調査を設定。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の推移をもとに目標設定。</li> </ul> <p>〔過去の推移〕 H21：58.9%→H24：64.2%→H26：66.6%</p>